



地域がん診療連携拠点病院・災害拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念

130年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針



患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・
予防医療を中心に
医療機能の
充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関
との連携を行い
安心できる医療の
展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・
医療情報公開・
医療ボランティアの
活動を行います

医療人育成

医療に携わる
喜びが持てる
医療人の育成を
行います

『外来患者呼出システム』が本格稼働いたしました

これまで、一部の診療科の診察呼出し時のみ稼働しておりました『外来患者呼出システム』が、平成25年6月より全ての診療科、検査、そして会計まで、外来患者さんが関わる殆どの場面で稼働いたします。

このシステムは、患者さんに受信機(『呼出カード』)をお渡しすることにより、診察・検査の順番が来るまで院内で自由にお過ごし頂くこと(患者図書館『もちの樹』の利用等)により、患者さんの待ち時間における負担を極力小さくし、快適にお過ごし頂く事を目的としています。加えて、自動再来受付機2台・自動精算機2台を導入し、ご来院時の受付から、検査、診察、お会計までスムーズな診療を提供いたします。

●初診の方(※救急でない場合、事前予約が必要です).....

- ① 1階受付カウンターへ紹介状、保険証をご提示いただきます。
- ② 問診をいたします。
- ③ 『受付票』、『呼出カード』をお渡しいたします。
- ④ 『呼出カード』にて案内があるまで、院内でご自由にお過ごしください。



1F 自動再来受付機と受付カウンター

●再診の方.....

- ① 1階設置の自動再来受付機へ『診察券』を入れてください。
- ② 保険証の確認メッセージが表示されたら画面上の**確認ボタン**に触れてください。
※受付処理終了後、受付カウンターにて**保険証の確認**をいたします。
- ③ 受付当日の診療内容をご確認いただき、画面上の**確認ボタン**に触れてください。
※予約内容と画面上の表示が異なる場合、画面上の**中止ボタン**に触れていただき、受付カウンターへお越しください。
- ④ 『診察券』『呼出カード』と『受付票』をお受け取りください。
- ⑤ 『受付票』を自動再来受付機にある、備え付けのクリアファイルにお入れください。
- ⑥ 『呼出カード』にて案内があるまで、院内でご自由にお過ごしください。



●会計の流れ.....

- ① 2階総合案内“診療が終わられた方”カウンターへ『受付票』と『呼出カード』をご提示いただきます。
- ② 『呼出カード』にて案内があるまで、しばらくお待ちください。

(会計計算終了のご案内確認後)

- ③ 自動精算機へ『診察券』を入れていただきます。
- ④ 自動精算機画面の案内に従ってお支払をしていただきます。
- ⑤ 『呼出カード』はこちらでご返却いただきます。



2F 総合案内と自動精算機

医事課 日當 幸治

熊本県初 iPad を用いた 胎児心拍監視

当院での分娩数は年々増加しています。平成22年は11件、23年は44件、24年は60件、そして今年は100件を超えると思われます。増加する分娩に対応すべく、設備の充実を図ってきました。骨董品レベルだった分娩監視装置（胎児心拍モニター）は最新鋭の4台に代わり、分娩台も2台に増えました。5月の病棟引っ越しと同時に待望の胎児心拍集中管理システムも導入されました。胎児心拍は、胎児が与えてくれる唯一のバイタルサインです。未だに胎児の血圧・SpO2・心電図の測定は実用化されていません。胎児の異常を発見する上で、胎児心拍パターンの解析は極めて重要です。

とりわけ分娩時は陣痛というストレスに曝されるため、胎児低酸素のリスクが増します。刻一刻と変化する胎児の状態を把握するために、連続的な胎児心拍の監視が求められます。これまでの胎児心拍監視は、ベッドサイドに張り付いて、マンツーマンで行う必要がありました。マンパワーの不足から、マンツーマンでの監視は実質的には不可能でした。しばらく監視を怠っている間に重篤な心拍低下が生じ



ることもあり、当院での胎児心拍監視法は重大な欠陥を孕んでいました。

胎児心拍集中管理システムの導入により、ナースステーションで複数の胎児心拍を同時に監視できるようになり、より安全性が高まったと言えるでしょう。

6月からは胎児心拍集中管理システムとiPadが連結され、外来や院外でも病棟の胎児心拍を監視できるようになりました。

iPadを用いた胎児心拍監視は、最先端のシステムであり、県内での導入は当院が初です。胎児心拍だけでなく、母体の血圧・SpO2も送信されるので、母児ともに有用です。

以上のようにハード面での充実は進んでいますが、医師と助産師の不足は変わりません。人吉球磨の周産期医療が崩壊しないよう、更なるサポートをお願いします。

産婦人科 瀬戸 雄飛

九州初 熊本県災害医療コーディネータに登録！

当院の下川副院長が大規模災害発生時に県が適切な医療体制を構築できるよう助言する「災害医療コーディネーター」に登録されましたのでご紹介します。

すでに新聞やニュースでご存知の方も多いと思いますが、6月18日 熊本県庁で県と病院との協定式が行われ、6病院9名の医師が九州初の「災害医療コーディネーター」に登録されました。

災害医療コーディネーターの役割は、熊本県内で震度6弱以上の地震か、それに匹敵する大きな災害が起きた場合、県の要請により、下記の業務を行います。

1. 県へ災害医療対策に対する医療の専門的見地から助言
2. 被災地等における医療ニーズの把握と分析

3. 災害派遣医療チームDMATの派遣要請に対する助言
4. 災害急性期における傷病者の受入医療機関の調整
5. 被災地等への医療救護班等の派遣調整
6. 県外からのDMAT、医療救護班等の受入調整

下川副院長を含めて今回登録された医師は、厚生労働省の統括DMAT研修を受け、東日本大震災も経験した災害医療のプロです。東日本大震災では宮城県の災害医療コーディネーターが医療体制の構築に活躍した実績があり、国もこの制度を都道府県に取り入れるよう呼びかけ、九州では初、全国的にも12番目の登録となっております。

庶務課 係長 木下 学



下川副院長



蒲島郁夫 熊本県知事と



山江村生涯学習講座

第1回「わいわい公民館」開催

in 人吉総合病院

山江村では今年度から、山江村民どなたでも参加できる生涯学習講座「わいわい公民館」事業を実施しています。

そのような中、人吉球磨の中核医療機関である人吉総合病院の建て替えが完了し、新しくなった人吉総合病院への村民の関心が大変高まっております。

そこで、「わいわい公民館」第1回の講座内容として、下川副院長による人吉総合病院の地域医療のあり方についての講演と、病院内の見学を受け入れていただきました。

講演では、生活習慣という小さなことを心がけることで大病を予防することが出来るという健康に関することから、これからの超高齢化社会を見据え、総合診療医の育成・



下川副院長の講演

在宅医療の推進をすることにより、地域住民の多様なニーズに応えるという総合病院の新たな役割まで、幅広く説明していただきました。

その後の病院内見学では、8階緩和病棟・化学療法室や、ヘリポートなどを見学させていただきました。

参加者は、「窓が大きく、景色が素晴らしい。こういう病院であれば、病気でも前向きに過ごせそう」という声や、「自動受付機をはじめ、人吉球磨の病院も進んだなあ」という声が聞かれ、盛会に終わることができました。

山江村教育委員会 川口 伸也

小学生訪問学習

6月6日(木) 小学校の生活科授業の一環で訪問学習、「レッツゴー！町たんけん」で人吉東小学校の2年生18名が当院を訪問しました。



こども達は、渡辺朋子ICU病棟科長から看護師の仕事や咳エチケットについての話を真剣に聞き、尋ねられ

た質問にも元気いっぱい返事をしてくれました。

また、屋上ヘリポートの見学ではヘリコプターの離着陸の説明を受け、病棟では車いすの乗車体験をしたり、普段の授業ではできないことを楽しみながら体験していました。

元気でかわいい訪問者に私たち病院職員も患者さんも元気をもらい、楽しいひと時を過ごすことができました。

もしかしたら、「何年後かに一緒に職員として働くことがあるかもしれない」そんな想像を膨らませながら、元気に帰っていく子ども達を見送りました。この体験を通して、少しでも医療に興味を持っていただけたら幸いです。

医療福祉連携室 岡本 理恵

「清流ハートクラブ」発足後100回目を迎えて

私たちの「清流ハートクラブ」は循環器系疾患の人のため人吉総合病院にて治療を受け、心機能を回復させてもらった元患者たちのサークルです。実は回復後も症状が再発しないよう病院の先生をはじめスタッフの皆さんがチームを組み、ボランティアで行なわれる月1回の「心リハ患者会」で医療の講話や運動、食事の指導助言を受けていますが、このようなアフターケアのお陰で私たちは自身の健康保持のみならず、会員との交流も深めながら安穏な生活を送っているところです。

今回、平成17年2月の発足以来、8年4ヶ月で100回目を迎えることができたのも、ひとえに岡先生をはじめスタッフの皆さんのご尽力があったからだと感謝しています。

ところで、この100回を記念して5月18日 東西コミュニティセンターにて「記念講演会」が開かれ、鹿屋体育大学教授 荻田太先生の講演がありました。演題は「運動がもたらす効果—身体への適応と具体的な運動の紹介—」ということで、生活習慣を克服する効果的な手法としての「有酸素運動—とりわけ持続して行なえる低強度運動



荻田 太先生



体操風景

の効用」をグラフや写真で示されるとともに、具体的例としての「貯金」ならぬ「貯筋運動」を紹介され、会場一体となって「体を使えば使うほど筋力が貯まる運動」を楽しみました。先生の深い学殖からの講演は説得力があり興味深く拝聴しましたが、これからは講演の趣旨を自分への課題として受けとめ、後は実践いかんにかかっていることを自覚した次第でした。

清流ハートクラブ 会長 蓑毛 英一

4階管理棟フロアの紹介

本棟管理棟フロアについて紹介いたします。

これまでそれぞれに配置されていた病院長室、副院長室、事務局長室、看護局長室、庶務課、経理課、医事課、施設課、診療情報管理室、電話交換、医療安全管理室、感染管理室、治験センター、医療福祉連携室ですが、4階フロアにはこれらの各部門が一挙に集まりワンフロアの部屋になりました。建替え前までは、用事がないときは1週間顔を合わせない事も度々ありましたが、現在は職員同士の接触機会はおのずと増え、部門を超えた連帯感や組織レベルでの活動が以前より可能になっていると感じています。

また、室内はとても明るく清潔感のある部屋です。中央には共有デスクも設けられ、少人数での話し合いが可能となっています。日中は職員以外のお入りも可能ですが、時間外・休日は職員専用のICカードを持っていないと入室できなくなり、セキュリティもしっかりしています。



さらに管理棟フロアの傍には首脳会談を思わせるような会議室や小カンファレンスも可能な会議室が計4箇所あります。

機会があれば是非ご覧ください。

医療福祉連携室 杉松 紗織

患者図書室

“もちの樹” 紹介

当院は早くから患者さんに医療情報の提供とリラックスできる環境の提供を目的として患者用図書室（多目的室）を設置しておりましたが、この度患者用図書室が大きく生まれ変わりました。

新しい患者用図書室は、病院建替えに伴って移植したもちの木（病院敷地のほぼ中央に立っていた、樹齢100～150年とみられる木）があった場所に位置するため「もちの樹」と名付けられ、移植された今も患者さんや職員を温かく見守っているようです。（もちの木は今秋、敷地内に戻ってきます！）



当院の患者用図書室はNPO法人「医療の質に関する研究会」の患者さんと医療提供者が連携して「協働の医療を促進する」という考えのもと実施された、全国50病院に患者図書室寄贈を行うプロジェクトに応募し、図書及び図書運営に必要なシステムを対象施設として寄贈していただいています。

現在、医学図書約400冊、一般図書約350冊の蔵書となっていますが、これからまた蔵書は増える予定です。図書だけではなく、パソコンを使用した情報収集も可能となっています。

外来患者誘導システムの導入もあり、院内の何処にいても時間になると患者さんを診察、検査にお呼びすることができるようになりましたので、入院中の患者さんだけでなく外来通院中の患者さんも安心して患者用図書室を利用していただけようになりました。

新しく生まれ変わった患者用図書室が、患者さんへ正しい医学知識とくつろぎの場を提供できるよう努めています。

経理課 那須 智子

konoy コンビニエンスショップのご案内

【営業時間】

平日 7:00～20:00
土日祝日 8:00～18:00

※年末年始のみ変更あり



当店の基本概念は、病院様にマッチしたオンリーワン店舗を目指しております。皆様のご意見を頂きながら、皆様と一緒に、より良い店舗を作ってまいりたいと考えております。

サービスについて

【銀行ATMについて】

店内に銀行ATM（東京スター銀行）を設置しております。売店営業時間中のご利用が可能です。

【その他サービスについて】

宅急便取次ぎ、郵便物投函代行、収納代行、コピー、ファックス、携帯電話充電、加温、給湯サービスなど行っております。

月に一度、季節に合った
フェア、実施中！！

取り扱い商品について

| | |
|----------|---|
| 食品・飲料 | 缶、ペット飲料、乳飲料、アイスクリーム、デザート、パン、弁当 カップ麺、調理済食品、自然食品、菓子等 |
| 日用雑貨 | 洗面用具、洗髪用品、洗濯用品、化粧雑貨、食卓用品、雨具、家庭雑貨、 キッチン用品、手芸用品、文房具、スリッパ・サンダル等 |
| 新聞・雑誌・書籍 | 各種新聞、各種雑誌、一般書籍、健康関連書籍 |
| 衣料品 | 肌着、寝巻、パジャマ、マスク、タオル、アウター（主に女性向けの洋服）等 |
| 専売品 | 郵便切手、官製ハガキ、テレホンカード、印紙等 |
| 健康食品 | 低カロリー食品、糖尿病対策品、豆乳食品、栄養補助食品等 |
| 衛生材料 | T字帯、腹巻、胸帯、包帯、眼帯、サージカルテープ、ガーゼ、脱脂綿、 |
| 医療用品 | 各種サポーター、薬吞器、お産パット、哺乳瓶、マスク、清拭剤、 検査用品等 |
| 介護用品 | 紙おむつ、リハビリシューズ、介護寝巻、清拭類、介護用食器、 介護用エプロン、介護雑貨等 |
| 病院指定品 | 業務用品、検査食、医療用具等 |

※上記は販売商品の一例です。店頭にはない商品はお取り寄せしますので、お気軽にお問い合わせ下さい。尚、商品によりましては日数を頂く場合がございます。ご了承下さい。

株式会社 光洋 橋本 善晴

実習を終えて



熊本大学医学部消化器外科の臨床実習の一環として、5月20日から24日までの5日間で外科において実習をさせて頂きました、熊本大学医学部医学科6年の今村光佑と申します。人吉総合病院のような地域の中核病院には行ったことがなく、こちらの病院を希望しました。

実習初日、人吉までの特急くまがわ号から望める景色や人吉駅からの観光気分などを楽しみ、病院に着くころにはすっかり観光気分となっていました。しかし、病院に着くとちょうど救急外来に患者さんが来ているということで、まずは救急外来に向かうこととなりました。救急外来では6人の研修医の先生と指導医の先生とで心臓マッサージや挿管などを行っているところで、のんびりとした気分から一転して、全くの想定外の状況に困惑しました。最終的には御家族が揃うまでは心臓マッサージを続けるということで、初めて人の死に立ち会うことになりました。死亡確認



今回、6月4～6日の3日間、産婦人科で実習させて頂いた、熊本大学医学部6年の古賀裕作と申します。

真っ赤なボディが見事な九州横断特急に初めて乗り、球磨川に沿って列車に揺られながら到着した人吉駅。人吉は空気がきれいで、自然豊かな町だなというのが第一印象でした。幸運にも、駅前のからくり時計が動いているのを見ることが出来、感動しながら病院へ向かいました。

病院に到着して初めに気づいたのが、病院スタッフの方々が皆さん挨拶を積極的に行っているということです。挨拶ってされるとこんなにも気持ちがいいものですね。とてもすがすがしい気持ちになれ、一人実習に来て寂しい気持ちもあったのですが、それが楽しみに変わった瞬間でした。今回は運がいいことに、先月診療開始したばかりの本館も見ることが出来、病院とは思えない雰囲気にも心奪われました。産婦人科では、大竹先生、瀬戸先生を初め、多くのスタッフの方々、それから多くの患者さんにお世話になりました。皆さん、とても優しく接していただき、と

をとる様子を目の当たりにし、人の生死に係わる医師の責任の重さを実感することができました。

それ以降は外科での手術を中心に実習をさせて頂きました。先生方は手術や病棟での処置、救急外来の対応などの合間に入院患者さんを見て回り、自分もそれにつかさせて頂きましたが、正直大変だなと思いました。しかし、そのような忙しさの中でも患者さんと温かく接する先生方の姿勢に感銘しました。消化器に限らず様々な患者さんがいて勉強になったのはもちろんですが、将来こうありたいと思える先生方の温かい姿勢に触れることができたのはとても大きかったなと感じています。

大学での実習も残り1ヵ月程で終わり、あとは座学での勉強になります。今回の実習では座学では学べないような貴重な経験ができ、人吉総合病院を希望して本当に良かったと思っています。最後になりましたが、今回の実習でお世話になりました先生方や看護師、事務の方々などからお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

熊本大学医学部医学科6年 今村 光佑

でも感謝しております。外来、病棟、手術と見学実習させて頂き、医療スタッフの質の高さ、連携の強さ、スムーズさに感動するとともに、たくさん勉強することができ、とても充実していました。

夜は温泉にも行きました。いつお産があるかも分からないので、携帯電話を片手に準備万端で行きました。人吉の方々はフレンドリーな方が多く、湯船につかりながら、初対面の私にたくさんお話をしていただきました。2日目は、夜遅くに温泉に行ったのですが、人吉の町並みを歩きながら見つけた露天風呂を満喫し、また幸運なことに、帰りは螢を見ることが出来ました。

今回の実習では、医学の勉強になったのはもちろん、将来医師として働く上で人間性という面でも学ぶことの多かった3日間でした。実習先として人吉総合病院を選択して良かったです。今回の経験をこれからの勉強、生活に活かしていきます。短い間でしたが、大変お世話になり、ありがとうございました。

熊本大学医学部医学科6年 古賀 裕作

平成25年度 熊本県がん専門相談員研修会

6月1日に国立病院機構熊本医療センターで行われた標記研修会にファシリテーターとして参加しました。今年は熊本県がん診療連携協議会相談支援・情報連携部会・がん専門相談員ワーキンググループ実行委員としての参加でもありました。

この研修会は、がん相談支援業務で必要となる基礎的知識・技能の学習を目的としており、地域がん診療拠点病院の要件である「相談支援センター相談員基礎研修」と連動し、「がん対策推進基本計画」中の施策「がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成」等の一環として行われています。

研修内容は、午前の部で山口赤十字病院医療ソーシャルワーカー橋直子先生による「がん患者への相談支援とは～相談員の役割～」と題した講義が行われました。ここでは、相談員として必要な知識・技術・価値と相談支援プロセスの全体像（心理的サポート：受容・傾聴→アセスメント：情報収集・問題の整理・多面的理解⇒問題の明確化・情報提供と理解の促進・方向性の検討と共有）などの話がありました。

午後は午前の講義をもとに、事例を通したグループワークが行われました。グループワークは、事実確認（相談

者の全人的理解）⇒問題の抽出⇒重点的課題の選択⇒支援内容の検討⇒グループ発表と進み、ファシリテーターはその過程と一緒に参加すると同時に、参加者が「コミュニケーションスキル」「対象者理解」「他の専門職や他機関との連携」「がん対策基本法に基づく相談員の役割」を意識して身につけられるようサポートします。

8月と11月には「相談支援センター相談員指導者研修」も控えています。今回痛感した力不足を少しでも補えればと思います。来年はコメンターとして、この研修会に企画・運営の面から関わることになると思われます。今回、当院からの受講者は0名でした。看護師の参加も多く、他職種と一緒に学べ、対象者理解を通じて共感していく貴重な研修でもあります。来年は当院からより多くの参加者を募りたいと思います。

相談支援センター 南 秀明



笑って健康促進！
第89回 翔幻会開催！

平成二十五年六月分開催分の句をご紹介します。
どうぞご鑑賞下さい。

川柳句会「翔」平成二十五年六月分

- お弁当中にも泳ぐ鯉のほり 章子
- 手をつなぐほのかなしめりゆうざくら 章子
- 新茶入れいつもの庭を眺めてる 章子
- 新緑のウサギのような子どもたち 章子
- 若葉見てブロッコリーを買いに行く 章子
- 目を閉じて指触れてみる若葉だわ 章子
- 若葉もゆ私も若芽出ないかな 章子
- ムチ打って坂道昇りひざ笑う 章子
- 春風に薄い髪毛がよく摩く 章子
- 口下手も食べる物では負けません 章子
- 裏表見分けのつかぬ派手な服 章子
- 花冷えはこういうものかマフラまく 章子
- テレビみてご当地グルメ食べあるぎ 章子
- 花迷路にわか矢印たどりつつ 章子
- サクラランポ一足先に鳥がたべ 章子
- 病院のエスカレーターがお出迎え 章子
- 竹の皮中のおにぎり母の味 章子
- 一年生登校坂がきつそうだ 章子
- 軒先をつばめ親子に宿を貸し 章子
- 住める村住めない村も花吹雪 章子
- 又来るよ先送りしたい誕生日 章子

次回は平成二十五年七月四日(木) 十四時から予防医療センター二階の婦人科外来前(元図書コーナー)で開催致します。
ご自由にご参加下さい。投稿のみの参加もできます。
院内設置の投稿箱にご投稿下さい。

新任紹介



みやがわ きなこ (9階・看護師)

最終卒業校：国立療養所再春荘病院附属看護学校
趣味：アロマコーディネーター取得したので、クラフト作り

好きな言葉：夢、努力
長所：明るく、よく働く 短所：細かい、こだわる
自分のコマーシャル：再就職させて頂きました。また同じ病棟で働けることが嬉しいです。自分にできる事、精一杯頑張ります！よろしくお願ひします。

リハビリ・予防医療センター 7月引越！

5月の本館引越後すぐに開始された研修棟の改修がほぼ終了し、7月中には新しく「リハビリ・予防医療センター棟」として運用を再開します。

1階に予防医療センター（健康診断受付）、2階に心臓リハビリを含むリハビリテーションが入ります。その次に西棟（旧予防医療センター棟）1階を改修し、今秋に向けて内視鏡室が大きく拡充します。

現在、旧病棟およびサービス棟の解体作業が始まっており、7月中旬より病院北東側の通路（旧病棟の建物下、通路部分）が通行止めとなります。老神神社側からは、リハビリ・予防医療センター棟入口の方向へお進み下さい。

大変ご不便をおかけしますが、第3駐車場および第一中学校駐車場（※ 土日および学校行事のときは使用不可）をどうぞご利用ください。

新人看護師研修 「メンタルヘルス」

お久しぶりです。今年の4月まで人吉総合病院に勤務していました臨床心理士の畑田です。今回、新人看護師たちの3ヶ月目の研修「メンタルヘルス」の講師として、呼んでいただきました。私が入吉総合病院に勤務し始めてから、毎年3ヶ月目の新人看護師たちにお話をさせてもらっており、今年で3回目となりました。毎年私の臨床経験とともに内容も少しずつ変化しており、今回は①新人看護師のストレスとは ②ストレスの受け取り方がストレスを変化させること ③自分を知るための心理テスト ④きつくなったときの考え方のヒント ⑤うつ病について、といった内容となりました。

新人でなくても、きつさや不安、悩みなどあると思いますが、特に新人は新しい職場、新しい人間関係等環境の変化が大きい時期を過ごしています。頑張ることも大切ですが、自分が潰れてしまわないような頑張りをして、周囲の人たちにも相談をしながら、前に進んでください。

こうやってまた人吉総合病院に来ることが出来て、とても嬉しく思いました。私自身も今の職場では新人ですが、これを励みにがんばっていこうと思います。

医療法人仁心会 松下病院 臨床心理士 畑田惣一郎

ボランティア募集

病院内で下記内容のボランティアをしていただける方を募集しています。今までボランティアの経験がない方でも活動できる内容です。あなたの優しい気持ちと奉仕の心を活かしてみませんか。現在、ボランティアをしていただいている方々は、入院患者様の緊急避難協力・アートギャラリーの展示企画・花壇の手入れ等に参加されています。

- (活動内容)
- ・患者用図書室の管理
 - ・介護者駐車場での介護
 - ・受付窓口での外来の受付補助
 - ・外来や病棟へのご案内
 - ・病児（病後児）保育室ボランティア

(活動時間) 平日（土日祝日を除く）
午前中 8:30 ~ 午後 17:00 の都合の良い時間

※ ご参加頂ける方は、下記までご連絡ください。

0966-22-2191 (代表)
担当者：医療福祉連携室、庶務課

